

## 2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 3月 20日

所属・職名	国際教養学部 教授	氏名	宮崎 緑
研究課題	メディアの論理と情報倫理		
研究キーワード	メディア、編集権、情報価値、ネットコミュニティ	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>20世紀末まで、政治・経済・社会・文化等の様々な局面でマスメディアが大きな影響力を有していたことは論を待たず、「第4の権力」との位置付けが専らであった。ところが、21世紀に入りパーソナルメディアが台頭すると、ネット上の世論が政策を左右する状況が出現、政策システムにおけるパラダイムシフトが起きている。メディアの変容による情報流通の変質と社会への影響力の変化は、メディア自身の情報収集・編集・発信のプロセスにも変容をもたらした。この状況について、具体的事例をケーススタディとして分析するため、今回は福島第一原子力発電所事故を巡る専門家のネットコミュニティに着目し、情報価値判断にどのような役割を果たしたか、分析した。成果物としての論文は本学紀要に掲載した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>「ネットコミュニティによるメディアの情報価値判断形成プロセス ～福島第一原子力発電所事故を事例に～」 千葉商大紀要第57巻第3号 2020年3月</p> <p>3. 主な経費</p> <p>現地取材や関係者の聞き取り調査、また、調査対象である研究会への参加経費など。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p>			
(本文は1ページ以内にまとめること)			